

10:14 一年間にソロモンのところに入って来た金の重さは、金の目方で六百六十六タラントであった。

10:15 このほかに、隊商から得たもの、貿易商人の商いで得たもの、アラビアのすべての王たち、およびその地の総督たちからのものがあった。

10:16 ソロモン王は、延べ金で大盾二百を作り、その大盾一つに六百シェケルの金を使った。

10:17 また延べ金で盾三百を作り、その盾一つに三ミナの金を使った。王はそれらを「レバノンの森の宮殿」に置いた。

10:18 王は大きな象牙の王座を作り、これに純粋な金をかぶせた。

10:19 王座には六つの段があり、その王座の背の上部は丸かった。座席の両側に肘掛けがあり、その肘掛けのわきには二頭の雄獅子が立っていた。

10:20 また、十二頭の雄獅子が六つの段の両側に立っていた。このような物は、どこの王国でも作られたことがなかった。

10:21 ソロモン王が飲み物に用いる器はすべて金であった。「レバノンの森の宮殿」にあった器もすべて純金で、銀の物はなかった。銀は、ソロモンの時代には価値あるものとは見なされていなかった。

10:22 王が海にヒラムの船団のほかにタルシシュの船団を持っていて、三年に一度、タルシシュの船団が金、銀、象牙、猿、孔雀を運んで来たからである。

10:23 ソロモン王は、富と知恵において、地上のどの王よりもまさっていた。

10:24 全世界は、神がソロモンの心に授けられた知恵を聞こうとして、彼に謁見を求めた。

10:25 彼らはそれぞれ贈り物として、銀の器、金の器、衣服、武器、バルサム油、馬、ろばなどを、毎年携えて来た。

10:26 ソロモンは戦車と騎兵を集め、戦車千四百台と騎兵一万二千人を所有した。彼はこれらを戦車の町々、およびエルサレムの王のもとに配置した。

10:27 王はエルサレムで銀を石のように用い、杉の木をシェフェラのいちじく桑の木のように大量に用いた。

10:28 ソロモンが所有していた馬は、エジプトとクエから輸入されたもので、王の商人たちが、代価を払ってクエから手に入れたものであった。

10:29 戦車はエジプトから銀六百、馬は銀百五十で買い上げられて、輸入された。同様に、ヒッタイト人のすべての王やアラムの王たちにも、王の商人たちの仲買で輸出された。

人は栄誉や富や成功で喜びにあるときにこそ、気をつけなければなりません。ソロモンはまさにその絶頂にありましたが、彼はそれゆえに神様に背くことをするに至りました。申命記において神様は、王たるものは妻と馬と富を多く持ちすぎてはならないと命じられたにも関わらず、彼はそれに心を奪われてしまったのです。

彼の知恵は主から与えられたのですし、王国を守るためには経済力や戦車の馬も必要でしたが、そのようなものは主に背くことの言い逃れにはなりません。主と歩んで来たことの末路が、逆に主から離れるようなことにはなっていないか、考える必要があります。むしろ過去を捨ててでも、今生きておられる主ご自身に従うとき、過去の恵が

何倍にも大きく揺るぎないものとなるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

